

支援活動報告書 講座名 環境教育実践研究センター 教員名 島野 智之

事業名	プランクトン（及び土壌生物）観察による生態系の復帰と農林水産業の復興等の評価
実施日時	2011年6月17日
対象	南三陸町立 伊里前小学校 4年生
開催場所	南三陸町立 伊里前小学校
活動内容 (画像があれば掲載してください)	<p>地域の産業のワカメ栽培について、ワカメの生活史を説明し、実際にワカメの種付け（遊走子の栽培網への定着）の仕組みを、南三陸町産業振興課、太齋氏とともに、観察した。遊走子の観察には、環境教育ライブラリー「えるふえ」から顕微鏡を持参した。</p> <p>河北新報6月18日朝刊15面に掲載された。</p>  <p>メカブを海水に入れて変化を観察する 児童＝17日、南三陸町伊里前小</p> <p><b>ワカメの生態 じっくり観察</b> 漁業者ら協力し授業 南三陸・伊里前小</p> <p>南三陸町伊里前小（児童140人）で17日、4年生21人がワカメの生態を学ぶ授業を行った。震災で町内の養殖施設は壊滅的な被害を受けたが、漁業者の協力で観察するメカブを確保した。町職員の本音彰浩さん、メカブをヒートカーに入れた。ワカメの子ども「遊走子」が出て水が白く濁る様子を電子顕微鏡で観察。島山寛泰さん（10）は「遊走子を見るのができて楽しかった。歌津でまたワカメが取れるように漁師さんには頑張ってもらいたい」と話した。同校では毎年、4年生が総合学習で「歌津の人々と漁業」をテーマにワカメの種はさみや収穫などを体験している。</p> <p>震災関連連84億円 増額補正提案へ 多賀城市</p>

[kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp](mailto:kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp)までお送りください。